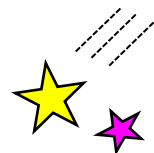


あそびのまなび



12月のテーマ

長浜市児童発達支援センター・こども療育センター

感覚

○今回は「感覚」についてお伝えしたいと思います。

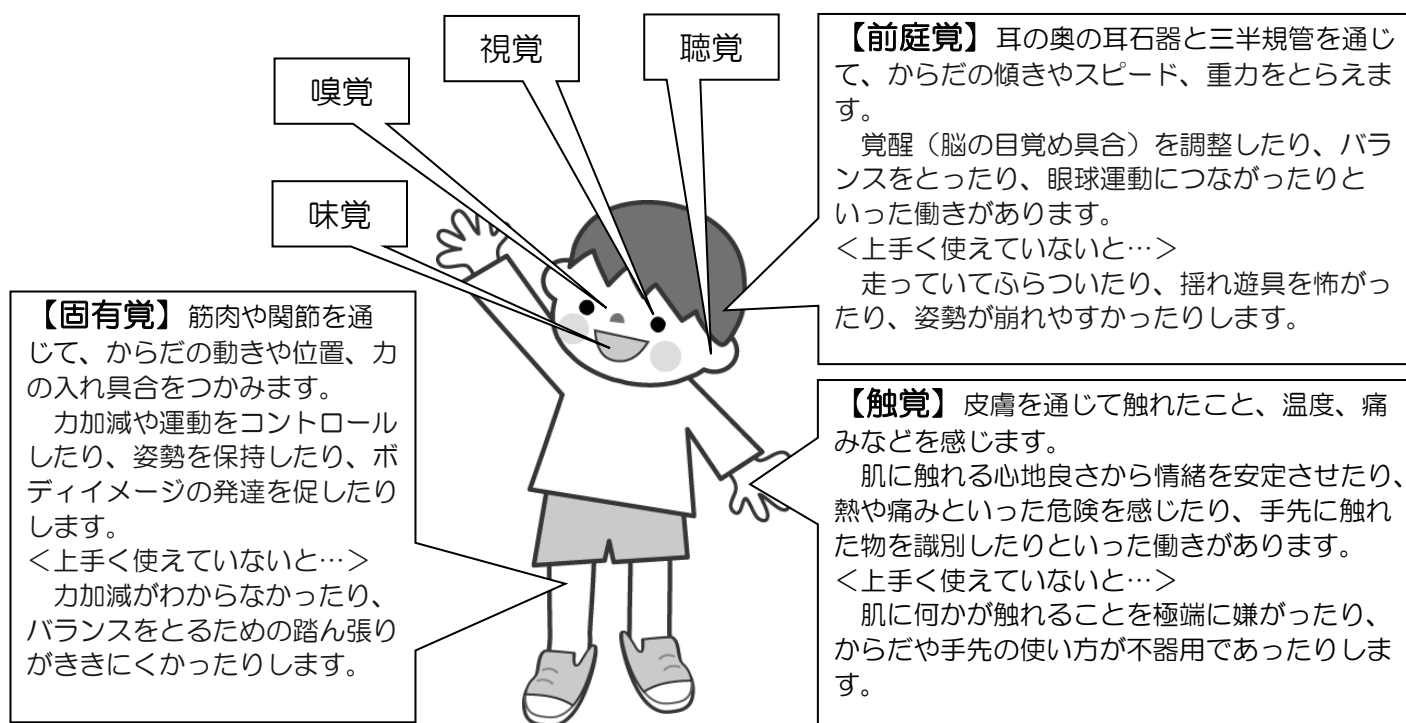
療育では、日ごろからいろいろな感覚に働きかける遊びをおこなっています。

「感覚」と言えば、【視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚】の五感を思い浮かべますが、発達をとらえる時にはさらに【固有覚】と【前庭覚】という感覚を加えて、これらの感覚を上手く使っているかどうかを見ます。

○なぜ「感覚」なのか

私たちは、自分のからだがどのような状況にあるのかを、いろいろな感覚を通して知ること、その状況に応じた行動を取ることができています。

たとえば、バケツにつまずいた時に転ばないのは、≪バケツに足が当たったことを見て捉え（視覚）、「がしゃん」という音を聞き分け（聴覚）、つま先でバケツに当たったことを感じ（触覚）、からだの傾きを感じてバランスを取ろうとし（前庭覚）、転ばないように足に力を入れて踏ん張る（固有覚）≫からです。一つの出来事にこれだけの感覚が使われていて、その感覚情報を上手く整理、統合することで、様々な出来事に対処できていることがわかんと思います。



○感覚を上手く使うということ

感覚を上手く使えるようになると、その場に応じた感覚の調整や注意の向け方ができるようになり、自分のからだを把握する、道具を使いこなす、人とコミュニケーションをとるといった周囲の状況の把握とそれをふまえた行動ができるようになります。

感覚を刺激する遊びを多く取り入れることで、感覚情報の処理がスムーズに行われるようになり、感覚の過敏さや感じにくさを軽減したり、からだの使い方の幅を広げたりすることにつながります。その結果、子どもたちの遊びや経験が広がるようになっていきます。

